

出題分析			
試験時間	90 分	配点	150 点
		大問数	4 題
分量（昨年比較）	〔減少 同程度 増加〕	難易度変化（昨年比較）	〔 易化 同程度 難化〕
<p>【概評】</p> <p>全小問数は昨年度より 5 問多い 57 問であった。今年度は地形図や地理院地図の出題はなく、他の地図やグラフもすべて黒 1 色刷りでカラー版はない。論述問題では今年度は1の問 2 で解答用紙 5 行の論述問題が 1 問見られた。他の論述問題では 4 行の問題が 2 問、3 行の問題が 3 問、2 行の問題が 3 問、1 行の問題が 2 問であった。解答用紙の論述総行数は、昨年度の 36 行に対して今年度は 30 行と 6 行減った。大問構成は昨年度の地図と土地利用が 1 問、人種・民族・宗教が 1 問、地誌が 2 問に対して、今年度は1と4が系統地理、2と3が地誌であるが、4は実質的には地誌である。図版、表、脚注を除いた問題文の総行数は、昨年度の 135 行から今年度は 163 行と増えている。特に難問はないが、十分な学習を要するものが多く、手堅く解答したい。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	農業と食料	農業と食料に関する問題。問 1 の短答記述問題は、D はやや難しいが、確実に得点したい。問 2 はここ十数年日本も協力しているアフリカ諸国へのネリカ米普及についての論述で、サブサハラアフリカの食料問題の理解が問われる。問 3 は遺伝子組み換え作物の正誤問題で平易である。問 4 はフードマイレージの問題で、日本の総量が他国より著しく多いことを念頭に置けば書きやすい。問 5 は統計問題としてはやや意表を突く問題であるが、4 つの指標中、3 つの指標のそれぞれ突出した値に着目して解答する。	標準
2	オセアニア	オセアニアに関する問題。問 1 の短答記述は全問正解したい。問 2 の理由も書きやすい論述である。問 3 はニュージーランド南島の位置と偏西風を念頭において論述する。問 4 の正誤判定は平易である。問 5 は 1970 年代初頭のイギリスの EC 加盟を考慮して書く。問 6 は確実に得点したい。	やや易

設問別講評			
3	北ヨーロッパ	北ヨーロッパに関する問題。問 1 は定型的な論述で平易である。問 2 も答えやすい。問 3 も失点は戒めたい。問 4 はデンマークの風力発電に着目する。問 5 は日本の豚肉、さけ・ます、木材の輸入先で北ヨーロッパの特徴的な国を考える。問 6 は基本事項である。問 7 はスウェーデンと日本における女性の働き方の違いを理解していれば国は判定しやすい。後の文章の空欄も書きやすい。	やや易
4	インドネシア経済	インドネシア経済に関する問題。同国の経済に焦点を当てているが、所々に地誌ともいえる問題も見られる。問 1 の短答記述は手堅く得点したい。問 2 は図の製品がパーム油とわかっても、インドネシアで起きている環境問題はやや書きにくい。問 3 は全問正解したい。問 4 の政策名も平易である。問 5 は指定語句のある論述で、広く貿易を学習していれば解答の指針は立つ。問 6 では X の GNI と GDP の違いを簡潔に書くことはやや難しい。Y は特徴ある 4 か国の顔ぶれから手堅く判定したい。	標準

合格のための学習法

本学の地理入試問題は、教科書レベルの基本的内容を正確に理解しているかを問うものが中心で、高得点が狙いやすい。高得点を獲得するためには、①今年度は出題がなかったが、地理院地図、地形図、各種の地図に対する対策を十分に講じておく、②基本的な用語や現象について、簡潔に文章にまとめて説明できるようにする練習を積んでおく、③地域単位のほかに、大国については国単位の地誌学習を行い、学習が手薄な国・地域をなくしておく、④本学および他大学の過去の地理入試問題の中で標準的内容のものを十分に研究しておく、以上の 4 点が重要である。